

のんびり もっと かるやかに

取扱説明書

nomoca®

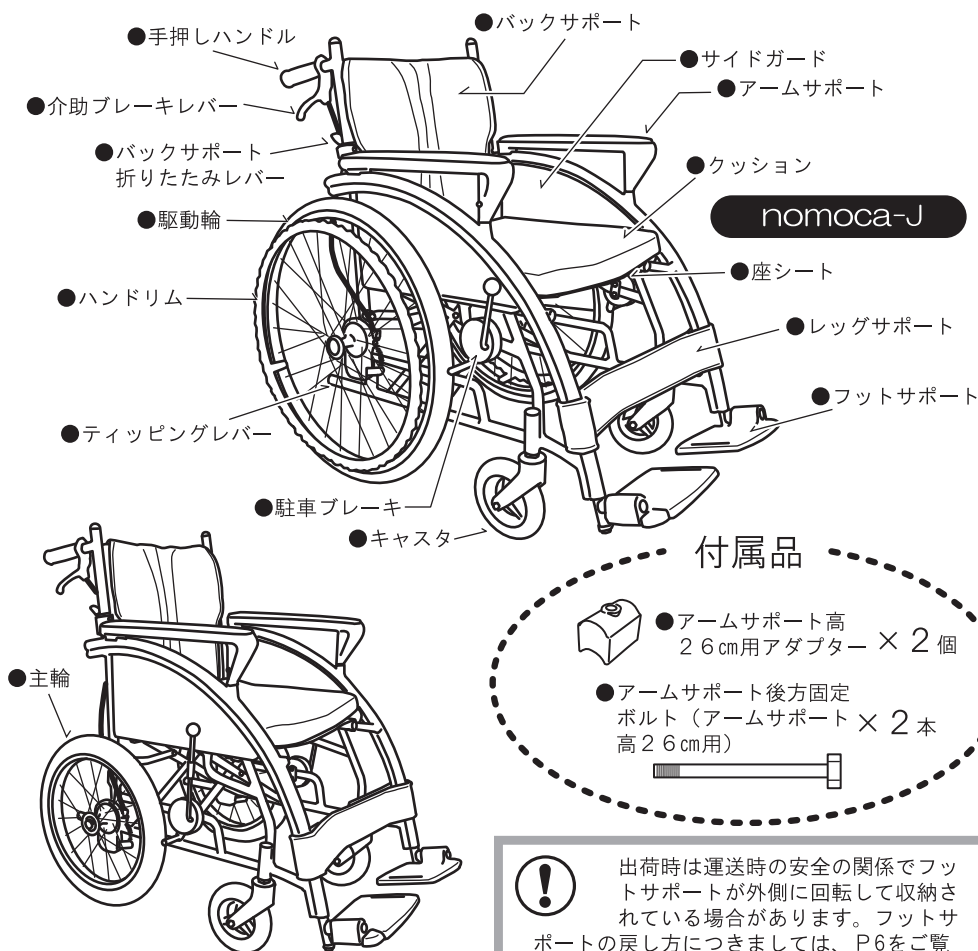
自走用 nomoca-J

介助用 nomoca-K

この度は、製品をお買い上げ頂きまして、まことにありがとうございます。製品を安全、快適にご使用いただくための大切な内容が記載されております。ご使用前に必ずお読みください。

なお、保証書も掲載致しておりますので、大切に保管してください。

各部の名称



nomoca-K



出荷時は運送時の安全の関係でフットサポートが外側に回転して収納されている場合があります。フットサポートの戻し方につきましては、P6をご覧ください。

ご確認ください

nomoca-J（自走用）

nomoca-Jは乗車者自身でハンドリムを駆動して操作する車いすです。この車いすは、特別な身体保持具、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準形の自走用車いすです。また、スポーツ用、入浴用等の特殊な使用目的のものではありません。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

nomoca-K（介助用）

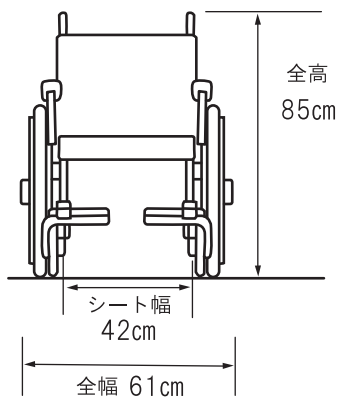
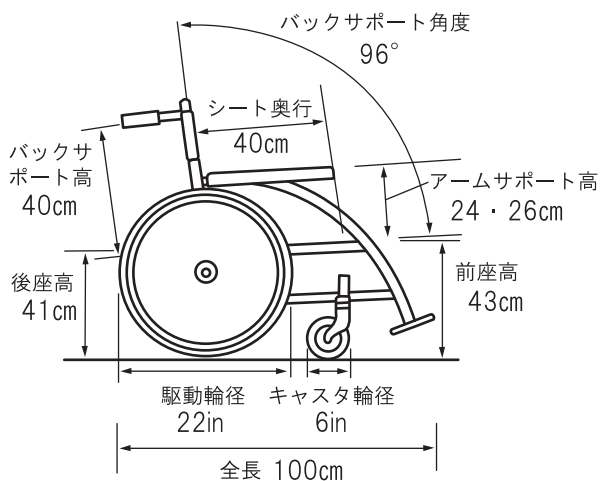
nomoca-Kは介助者が操作する車いすです。この車いすは、バックサポート（背）の角度調整・座位の姿勢変換（昇降・旋回など）等の機構がない、標準形の介助用車いすです。なお、購入時はこの標準形が適していても、特別な身体保持具などが必要になってきた場合など、標準形が使用に適さなくなることがあります。

仕様・サイズ

※ [（ ）] は折りたたみ時の値]

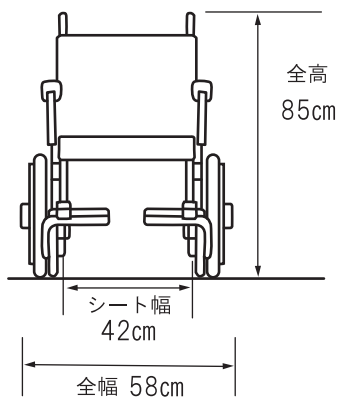
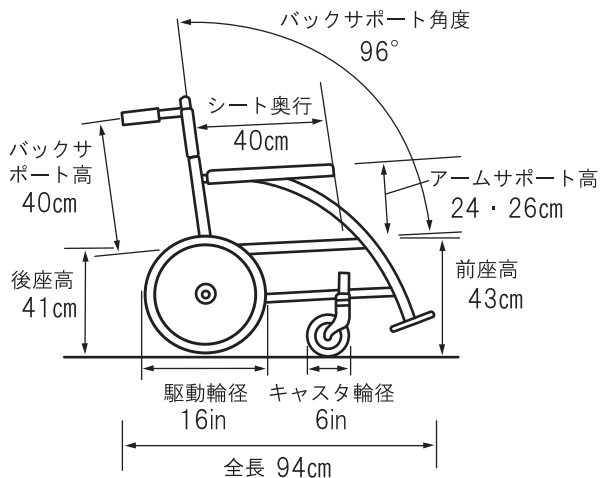
項目 \ 機種	の も か nomoca-J	の も か nomoca-K
全長	1 0 0（1 0 0）cm	9 4（9 3）cm
全高	8 6（6 6）cm	
全幅	6 1（3 5）cm	5 8（3 2）cm
ハンドリムをはずしたときの全幅	5 8（3 3）cm	
前座高／後座高	4 3 / 4 1 cm（座クッション厚含まず）	
シート幅	4 2 cm（アームパイプ内々寸法）	
シート奥行	4 0 cm	
バックサポート高	4 0 cm（座クッション厚含まず）	
アームサポート高	2 4 ・ 2 6 cm（座クッション厚含まず）	
手押しハンドル高	7 8 cm	
バックサポート角度	9 6°	
キャスト	6 インチ P U キャスタ輪	
駆動輪・主輪	2 2 インチ ハイポリマー車輪	1 6 インチ ハイポリマー車輪
バックサポート	マジックベルトによる張り調整式	
フレーム材質	アルミ 軽合金	
耐荷重	1 0 0 kg（積載分含む）	
重量（座クッション含む）	1 5 . 6 kg	1 4 . 3 kg
駆動輪・主輪 取付けナット	インチねじ（UNF1/2-20山）を使用	

nomoca-J (自走用)



※上記寸法には、クッションの厚さは含まれておりません。

nomoca-K (介助用)



※上記寸法には、クッションの厚さは含まれておりません。

シンボルマークの定義

当取扱説明書内において、正しい取扱いに関する必要事項を下記のシンボルで表示しています。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または、重傷にいたる可能性が想定される場合を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害に至る可能性、または、物的損害の発生が想定される場合を示しています。
 禁止	してはいけないことを示しています。



警告

- 乗車時は必ず、シートベルトを装着してください。シートベルトを装着しない状態や、シートベルトの長さが適切に調整されていない状態での使用はしないでください。
- 各部のガタつきやネジのゆるみ、タイヤのすりへり、その他の不具合により、思わぬ事故につながる場合があります。定期的に取扱業者のチェックを受け、不具合がないか確かめてください。
- 使用者の体調が著しく低下しているときは、充分に注意して使用してください。
- からだに合わない状態での使用はしないでください。
- 各部の調整・調節を行うときは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行時には地面に凹凸や障害物がないか充分に注意してください。走行中、各部に凹凸や障害物が引っかかると、転倒や製品の破損のおそれがあります。
- 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- 倒れかかるような座り方や、身を乗り出すような座り方はしないでください。バランスをくずして転倒することがあります。
- エスカレーターでの使用はしないでください。転落による事故のおそれがあります。
- 踏切りを横断の際は、車輪をレールに対して直角にして走行してください。斜めの角度で進入するとレールの溝にはまる危険があります。
- 手押しハンドルやフレームなどに手荷物等を掛けしないでください。荷物等が各部に当たり誤動作をしたり、バランスをくずして転倒する恐れがあります。
- フットサポートの上に立たないでください。製品の破損だけでなく、転倒による事故のおそれがあります。
- 持ち運びの際は、メインフレーム以外を持たないでください。（アームサポートやフットサポート、手押しハンドル、シート、シートベルト等を持って運ぶと、製品の破損や事故につながる恐れがあります。）
- 坂道での駐車はしないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- 本書記載以外の使用はしないでください。
- 踏台や脚立・歩行器のかわりに使用しないでください。
- 子供に操作をさせないでください。
- 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- フレームの折れ、曲がり、シート・ベルト類の破損など壊れた状態での使用はしないでください。（使用中止し、すみやかに販売店へ修理、部品交換をご依頼ください。）
- 体重が製品の耐荷重を超える方の使用はしないでください。
- 製品の改良・改善により、詳細において本書の内容と異なる場合があります。不明な事柄につきましては、販売店までお問合せください。

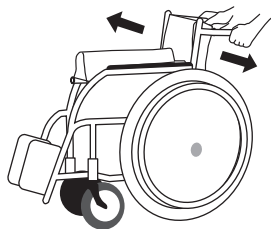


注意

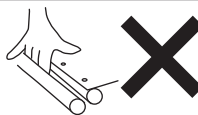
- バックサポートの張り調整が不適切な状態での使用はしないでください。
- 周辺に小さなお子様がいたときは、指や手足を挟むなどして、ケガをするおそれがありますので十分にご注意ください。
- 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取扱いをしたり、落としたり、叩いたりなどの強い力や衝撃を与えないでください。製品が破損することがあります。
- 水にぬれた場合、そのままにしておくで製品に錆びやカビが出ることがあります。ぬれた場合は乾いた布ですみやかに拭きとってください。水中での使用はしないでください。
- 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが痛むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり、高温になったシートに座ることで体調に悪影響を与えることがあります。
- 改造や分解はしないでください。

車いすの拡げかた

- 1** 手押しハンドルを持って軽く左右に拡げてください。

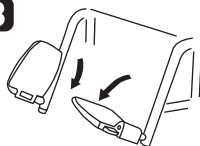


- 2** 片方の手押しハンドルを持ち上げるように反対側の座面下のパイプ部を下の方へ押し下げます。



押し下げる際、座面パイプの下側や横側に手や指を入れないでください。危険です。

3

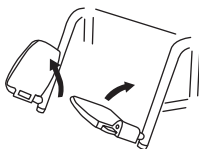


フットサポートプレート
を下方へ回転させるよう
にセットします。使用者
が車いすに座ってから行
うのが一般的です。

車いすの折りたたみかた

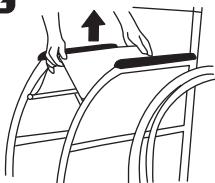
※折りたたみはクッションをはずしてから行います。

1



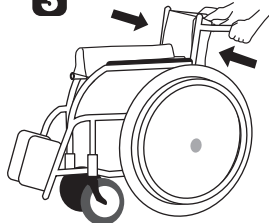
フットサポートプレート
を上方へ回転させて収納
します。

2



座面シートの、
前後中央部を持
ち上げます。

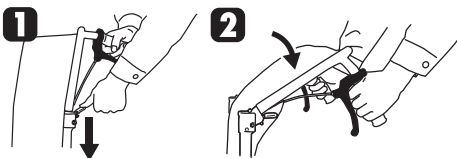
3



手押しハンドルを持って、
左右から押し縮めるように
折りたたんでください。

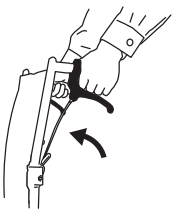
バックサポートの折りたたみかた・固定のしかた

折りたたみかた



手押しハンドルを握り、一方の手でバックサポート折りたたみレバーを下に押しながら、手押しハンドルを手前に引くように少し折り曲げます。反対側も同様の手順で少し折り曲げてください。続いて、左右同時に折りたたみます。

固定のしかた



手押しハンドルを握り、上方へ引き起こすように持ち上げてください。左右のスライドピンが「カチッ」とロックされたことを必ず確認してください。

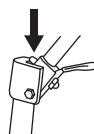


警告

車いすに乗る際は、完全にバックサポートが固定されている事を確認してから、座ってください。

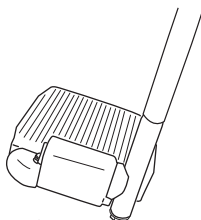


注意



- 矢印の部分に手や指を置かないでください。
- 矢印の部分にバックサポートシートをはさみこまないように注意してください。

フットサポートの調節のしかた



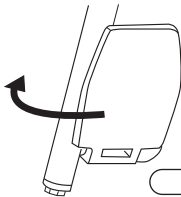
調節用ボルト

- フットサポート下端の調節用ボルトを13mmのスパナで緩めて、高さを合わせてから、調節用ボルトをしっかり締め付けます。（上下にスライドしにくい場合は、プラスチック製ハンマーなどで、調節用ボルトを下からたたくようにショックをあたえと緩みます。）



注意

- ・ 調節後はしっかりと調節用ボルトを締めて固定してからご使用ください。
- ・ フットサポートを下げすぎると、段差やスロープ等でつまずくことがあります。フットサポートの最下端部で、地面から5cm程度あったほうが良いでしょう。
- ・ フットサポートに腰掛けたり、登ったりしないでください。



出荷時

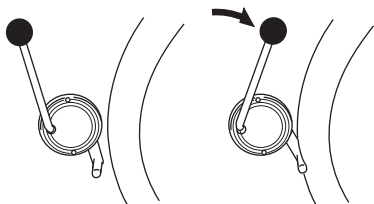
調節用ボルト

出荷時はフットサポートを、外側後方に回転して収納してある場合があります。調節用ボルトを緩めて、前方に回転させ、高さを調節してから、調節用ボルトをしっかり閉めて固定してください。

駐車ブレーキのかけかた

解除時

駐車

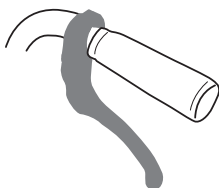


●レバー先端のノブを手で後方に引くと駐車ブレーキがかかります。レバーを前方に戻すと、解除されます。

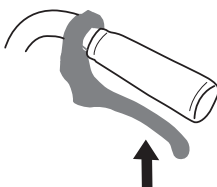


- ・しっかりブレーキをかけていても、乗降時などに、横から強い力が加わると車いすは簡単に動いてしまいますので、十分注意してください。
- ・坂の途中では駐車しないでください。やむを得ず駐車する場合は2輪以上に車止めをしてください。
- ・ブレーキレバーに体重をあずけたり、足でレバー操作するなど、レバーに強い力がかかる行為はしないでください。

介助ブレーキのかけかた



解除時



介助ブレーキ

左右の介助ブレーキレバーを同時に握ると介助ブレーキがかかります。



禁止

介助ブレーキは、駐車ブレーキとして使用することはできません。駐車目的では使用しないでください。

駆動輪の操作のしかた（nomoca-J）のみ

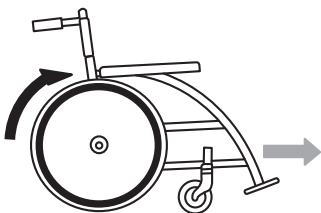


- ・乗車者がハンドリムを握り、ハンドリムを前に押したり、後ろへ引いたりすることで、前進又は後退します。
- ・走行中にブレーキをかけるには、ハンドリムを握って駆動輪を止めます。

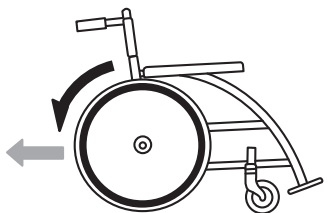


禁止

タイヤを握って車いすを漕がないでください。タイヤを持って漕ぐと、ブレーキやフレーム、アームサポート等の間で指を挟むことがあり危険です。

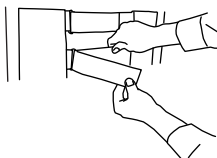
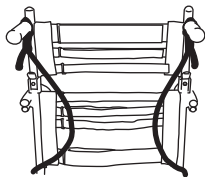


ハンドリムを前に押すように回すと車いすが前進します。



ハンドリムを後ろに引くように回すと車いすが後退します。

バックサポートの張り具合の調整のしかた



1. バックサポートシートをはずしてください。
2. 任意にマジックベルトを緩めてしっかりとマジックベルトを固定してください。
3. バックサポートシートをかぶせて完成です。



- ・使用者が乗車した状態で調整する場合、ベルトは必ず一本ずつはずして調整してください。全てはずすと、乗車者が落下しケガをする恐れがあります。
- ・バックサポートの張り調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- ・ベルトは5cm程度たるませるのが限界です。それ以上たるませると、マジックテープの効きが弱くなり、ベルトがはずれる可能性があります。

シートベルトの使いかた

- 乗車時は必ずシートベルトを装着してください。



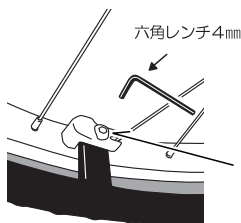
シートベルトのとめかた

カンにベルトを通し、折り返してマジックを合わせてとめます。



- シートベルトを誤っておしりの下に敷いて長時間座ると、床ずれ等の原因にもなります。十分注意してください。
- 誤ってシートベルトを装着したまま車いすから降りようとすると、車いすと一緒に転倒する可能性があります。十分注意してください。
- 装着時には、マジックがしっかりと貼りあわせられていることを確認してください。

ハンドリムの着脱のしかた（nomoca-Jのみ）



ハンドリムと駆動輪を固定している、ハンドリム固定ボルトを4mmの六角レンチで緩めてはまずと、ハンドリムを駆動輪からはずすことができます。はずしたハンドリムを取付ける際は、ハンドリムを元通りにセットし、4本のハンドリム固定ボルトをしめて、しっかりと固定します。

ハンドリム固定ボルト締め付けトルク
1.5Nm



- ・ハンドリムの着脱につきましては、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。
- ・ハンドリム固定ボルトの締めすぎ、締め忘れがないように注意してください。

アームサポート高の変更のしかた



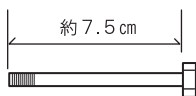
アームサポート高の変更は、専門知識と技術を持った販売店にご相談下さい。（電動ドライバー等の専門工具が必要な場合があります。）

アームサポートとフレームは、アームサポート前方固定Sタイと、アームサポート後方固定ボルトで固定されています。下図を参照し、パーツを組みかえることで、アームサポート高を変更することができます。

付属品



アームサポート高
26cm用アダプター



アームサポート後方固定
ボルト（アームサポート
高26cm用）

出荷時の製品に使用されている部品

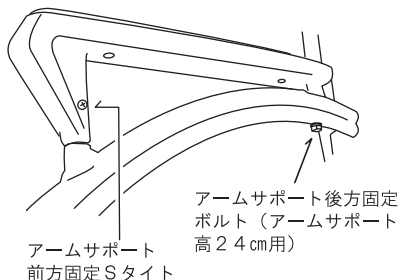


アームサポート
前方固定Sタイ

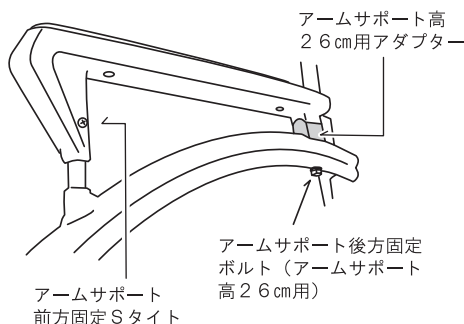


アームサポート後方固定
ボルト（アームサポート
高24cm用）

アームサポート高24cmの場合

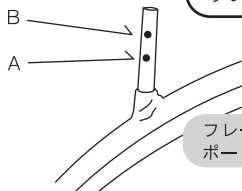


アームサポート高26cmの場合



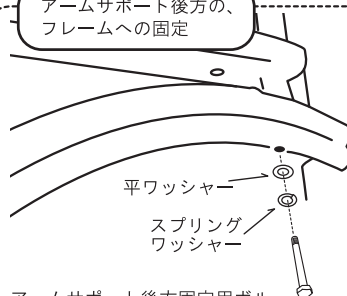
アームサポート高を26cmにする時は、アームサポート高26cm用アダプターをフレームとアームサポートの間にはさんで固定します。

アームサポート前方の、
フレームへの固定位置



- アームサポート高を24cmにするには、Aの穴とアームサポート前方の穴をあわせて、Sタイで固定します。
- アームサポート高を26cmにするには、Bの穴とアームサポート前方の穴をあわせて、Sタイで固定します。

アームサポート後方の、
フレームへの固定



アームサポート後方固定用ボルトの取付けには、上図のように、平ワッシャーとスプリングワッシャーを使用してください。

使用前点検（必ず行ってください）

- 介助ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 駐車ブレーキがしっかり効くかどうかご確認ください。
- 介助ブレーキのワイヤーの張り具合が適当かどうか点検し、正常に動作するかどうかご確認ください。
- ネジ・ボルトのゆるみがないか、フレームのガタつきがひどくないかご確認ください。
- シート・ベルト類・シートベルトに亀裂や破れがないかご確認ください。
- 駆動輪・主輪タイヤの溝がなくなりかけていないか、タイヤに亀裂がないかご確認ください。
- 車輪のガタ・緩み・曲がり等がないかご確認ください。
- 前輪キャスタ輪及びキャスタフォークに変形、亀裂等がないかご確認ください。
- 各部パーツの変形、破損がないかご確認ください。



警告

製品に異常がある場合は使用を中止し、すみやかに販売店に修理・部品交換・調節をご依頼ください。

メンテナンス

- ボルトの緩み、フレームのガタ、タイヤの溝や亀裂など目視や簡単に手で触って分かるようなチェックは、日常的に行ってください。
- 各部のメンテナンス（調節・補修・修理・部品交換等）はお買い上げの販売店にご依頼ください。

保管方法

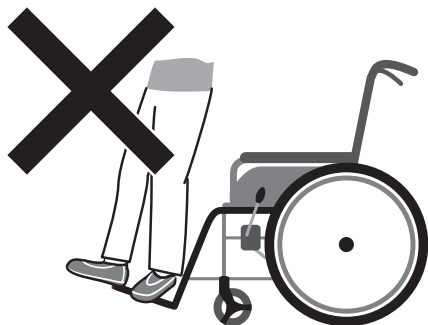
- シートが汚れた場合は中性洗剤を染み込ませた布で汚れを拭き取り、その後水で濡らした布で洗剤をきれいに拭き取ってください。汚れを取ったあとは、完全に乾燥させてからご使用ください。生乾きでの使用はカビや異臭の原因となります。
- 直射日光の当たる場所や高温多湿な場所での長期保管は避けて下さい。

車いすを安全にご使用いただくための注意事項



禁止

フットサポートの上に立たないでください。

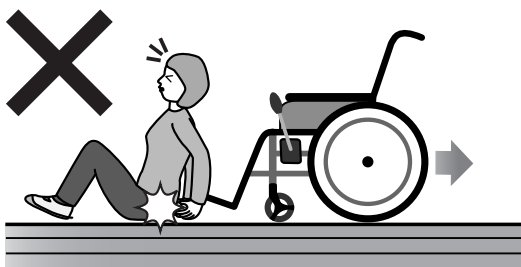


車いすのフットサポートの上に立つようなことはしないでください。製品の破損のおそれだけでなく、転倒による事故の危険があります。



警告

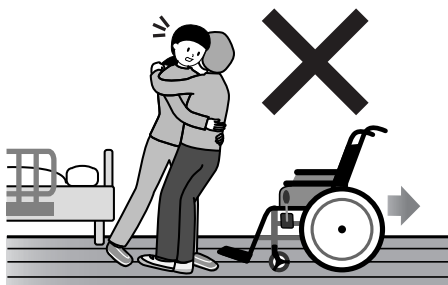
車いすからの乗り降りは、左右の駐車ブレーキを確実にかけておこなってください。



車いすから乗り降りする場合は、左右の駐車ブレーキを確実にかけて、乗降動作をおこなってください。駐車ブレーキがかかっていない状態での乗り降りは、転倒や車いすが思わず動き出してしまうことでの事故の危険があります。

左右の駐車ブレーキを確実にかけて行ってください。

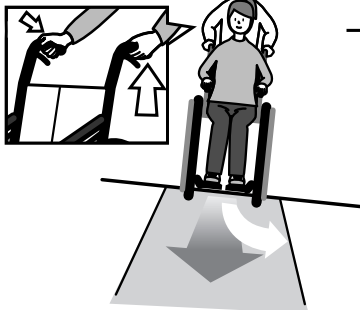
- 車いすからの乗り降りの際
- 車いすからベッドなどへ、ベッドなどから車いすへの移乗の際
- 車いすからはなれる際



車いすの使用のポイント

押し方

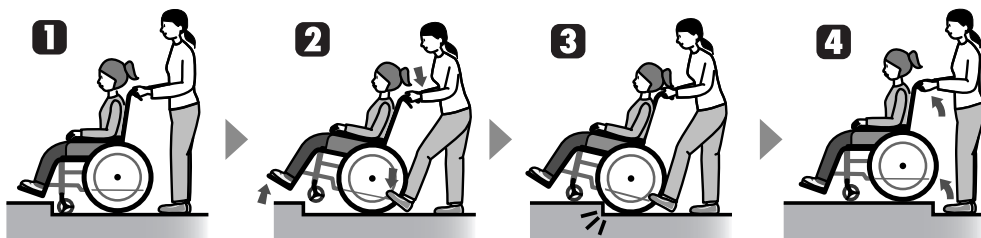
介助者が車いすのグリップを握り、進行方向へ押します。急発進・急停止は、乗車者に不快感を与えます。声をかけるなどの配慮をお願いします。



■外での注意（傾いた道での押し方）

傾いている側の手に力を入れて、車いすが低いほうへ曲がらないようにして押します。普通の押し方では低いほうに曲がってしまいます。

段 差



- 1** 段差の直前で停車します。
- 2** グリップを引きながら同時にティッピングレバーを踏み、キャストを上げます。
- 3** 段差に駆動輪（主輪）を当てます。
- 4** グリップを持って車いすを持ち上げ、段差を乗り越えてください。

坂 道



上がるときは前向きで。

下るときは後向きで。

坂道では、前傾の姿勢で前向きで上り、後ろ向きで下るのが基本です。



坂道を前向きで下ると、乗車者が前方へ転倒したり、前方へズレたりして大変危険です。

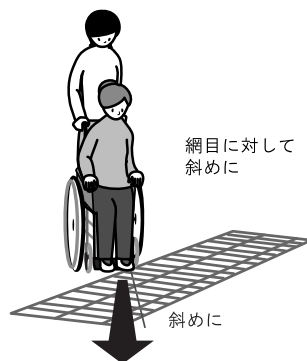
溝や踏切

キャストや駆動輪の幅・直径よりも広い溝や踏切等を通過する場合は、溝に対して直角に進入してください。直角でない場合、キャストや駆動輪が溝にはまり、抜けなくなる恐れがあります。溝の手前でキャストを持ち上げ、通過する方法もあります。



グレーチング

グレーチング（側溝を埋める金網など）を通過する場合は、右図のようにグレーチングに対して斜めに進入してください。



車いすのトラブルシューティング

故障かな？と思ったら、まずは販売店へお問い合わせください。

症 状	原 因	解決方法
斜行する。 まっすぐ走らない。	駐車ブレーキが解除されていない。	駐車ブレーキを解除してください。
	キャスタ取付けが緩んでいる。 キャスタ輪がスムーズに回転しない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
駐車ブレーキが効かない。	ブレーキのタイヤ押さえ金具が汚れている。	タイヤ押さえ金具の汚れを拭きとってください。
	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキががたつく。(本体が動く) タイヤ押さえ金具とタイヤが当たっていない。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
介助ブレーキが効かない。	主輪・駆動輪のタイヤが磨耗している。 ブレーキのワイヤーの伸び、切れ。 車軸部ドラム押さえバンドの磨耗。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
車いすを折りたためない。	フットサポートが干渉している。 積載物などがはさまっている。	正規の状態にして再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
車いすをひろげられない。	主輪が縁石などに当たっている。	広い平らな場所で再度お試しください。
	車いすの折りたたみ機構がかたい。 シートの挟みこみ。 介助ブレーキのワイヤー等の引っかかり。	お買い上げの販売店へご相談ください。
異臭がする。	シートやアームサポートの汚れ。	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。
異音がする。 車いすがぐらつく。	シートの伸び等による干渉。 サビ・磨耗・汚れ等による油切れ 主輪・駆動輪取付けの緩み	お買い上げの販売店へ修理を依頼してください。

保証規定

I. 保証の範囲

1. 保証期間中に品質の不完全に基づく故障を生じた場合には下記の保証書により無料で修理いたします。
2. 保証期間はお買い上げ後1年間です。
3. 但し、次の場合は保証期間中でも有料になります。
 - (a) 取扱い過誤による故障。
 - (b) 製品に改造を加えた場合の故障。※純正品以外の部品を使用した場合も含まれます。
 - (c) 天災、地変等による故障ならびに損傷。
 - (d) 消耗部品、タイヤなど。
 - (e) 保証書にお買い上げ店名の記載、捺印のない場合。
 - (f) 保証書のご提示がない場合。
4. 以上の保証は本製品を日本国内に設置した場合に限りです。
5. この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

II. サービスのご用命

保証期間中、万一故障が生じた場合はお買い上げの販売店へ保証書を添えてお申し出ください。

III. ご注意

保証書は再発行しませんので大切に保管してください。

品質保証書

本商品については上面記載の「保証規定」により正常な使用状態において故障が生じた場合に限りお買い上げ日より「1年間」無償にて修理致します。

機 種								
お客さま	ご住所	〒						
	(フリガナ) ご氏名	TEL						
お買い上げ日		年	月	日	保証有効年月日	年	月	日まで
販 売 店								
総販売元								
製 造 元		日進医療器株式会社 〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現35-2 TEL <0568>21-0635(代) FAX <0568>23-2787						

日進医療器株式会社

本 社	〒481-8681 愛知県北名古屋市沖村権現 3 5 番地の 2 T E L <0568>21-0635(代) F A X <0568>23-2787
東京営業所	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-21-14 T E L <03>3814-0923(代) F A X <03>3814-4644
大阪営業所	〒533-0013 大阪府大阪市東淀川区豊里 6-16-10 T E L <06>6323-8265(代) F A X <06>6326-2554
九州営業所	〒812-0876 福岡県福岡市博多区昭南町2丁目3-8 T E L <092>513-5036(代) F A X <092>513-5038